

42 破天荒

令和 元年度版

創刊
第三十一号

2年3学期は人生の中でも忘れられない学期になりそうです

三月三日は桃の節句です。今年も本来であれば、四十一回生の卒業式に自分の一年後の姿を重ねながら、心を込めて参加し、この三月三日は学年末考査最終日のはずでした。

世界は今後、どう収束していくのでしょうか。私達を取り巻く環境は、今まで経験したことのないものです。だからこそ、起こりうることの予測、当たり前にできる基礎的な要素(生活面でも、学習面でも)を徹底する、景色を広げることができるを増やすことが大切だと思います。

とはいえ、私達四十二回生に残された相生高校での日々は、すでに一年を切りました。何度も伝えていくように、三年生零学期であった二年三学期の助走を経て、いよいよ具体化したターゲットに向かって走り始める春休みです。

四十二回生の皆さん、困難は乗り越えられる人しか与えられません。選ばれた我々は、今こそ自分達が試されている、自分の底力を引き出しましょう。私達教師団も、許される限り毎日、あなたたちにメッセージを発信し続けます。皆さんは、教科書、メッセージ、参考書等を利用して、自分の中にある「自ら学ぶ意欲」、「身につけたい欲望」、「分らない」という言葉への悔しさを呼び起こし、本当の自己解決力に出会いましょう。

兵庫県の先輩方は、今を遡ること二十五年、受験シーズンの真っ只中に未曾有の大地震に振り回された経験があります。それでも、兵庫が、日本が今あるのは、そのピンチをチャンスに捉えて、後世にそれらの困難を跳ね返したエネルギーを伝えてくれたおかげです。

いま私達が置かれている状況は、それに比べれば、インターネットの技術・それらも含めた自己学習力の環境も、格段の差があります。ハードの進んだ整備に対して、我々教師を含めた個々のソフトが、そのハードの上でどう動き、どう活用し、どう結果を出していくか。

あと一年弱。四十二回生集団のこの二年間に培ってきたものが、いよいよ皆さんとともに、保護者の皆様も含めて試されるチャンスをおいただきました。この困難を楽しみ、個々の本来の底力を引き出しましょう。

学びとは、教科書・学習のみならず、自分をどう生かすかの企画・計画など、自らをどう見つめるか、自らの課題にどう自分を立ち向かわせるか、自らの歩みをどう具体的に評価していくかなど、様々な局面の中にあるものです。

今こそ しておいて欲しいこと

一、徹底的な復習

春季課題を利用して、提出ノルマのイメージでなく、教科書・授業ノート・参考書を活用して、気付きの学習パターンを身につけること。
三年生での学習は、演習が増え、見直し・確認の機会を軽視しがちです。今こそ、復習の機会増により、自己解決回数増加を実感しよう。

一、メリハリをつける方法

(自分のリフレクシユ法の確立)
人はそれぞれに、集中力を高める・学習効率を上げる方法は異なります。授業・補習・部活動等にと、忙しい時期には、なかなか「試す」という行為はできません。与えられる時間が増えた「いま」だからこそ、効果的に使える、人によって差が生まれる時間です。

一、間違いを実感する時間を作る

つねに「間違いを許さない」考えは、非常に危険です。ただ、皆さんには「間違いを許す」時間がなかなかないのも事実。
今回の時間軸の中で経験して、実感をした間違いの中から、自らの課題を修正したり、その経験をしたから、よりスムーズに正解の道を進めるようになることも実感してもらえないかと思えます。

「埋める」学習のための時間ではなく、「気付く」学習のための時間を過ごしてほしい。そのためには、平等に与えられた二十四時間を、人とは違う時間活用のために、皆さんがどう行動してくれるのか、私達もまた、自分の想いの中に、皆さんの行動への期待を込めて、四月八日を迎えたいと思います。

二学年最終号では、学年団の先生方から、それぞれの三学年零学期から、皆さんに励ましのお言葉を頂きました。その紹介と、その裏にある言葉の読み取りを、しっかりとしてもらいたいと思います。

3月 4日連絡分

昨日より、自分の意思に関わらずばくち盛れます。昨日は、どんな一日でしたか。確かに、一日24時間は平等に過ぎますが、個人個人で一日に使える時間は、不平等です。たかが一日しか過ぎませんが、その一日をどう過ごしたか、これがこの先のあなたたちの時間の使い方の礎となります。ノルマクリア的な発想ではなく、ピンチをチャンスに変えられる、今こそ自分の中の課題克服・スキルアップのために、素晴らしい時間にして欲しいと思います。

「見る夢は醒め 消える 追う夢は叶う 追うのではなく 追い続け 今の夢を追い抜け」

3月 5日連絡分

おはようございます。ニュースを見ても、休校中の児童・生徒たちは力を持て余しているのが現状のようですね。皆さんはどうですか。
「不要・不急の外出を控えよ」の言葉の中に、「無意味な」を付け加えてください。そうすると、こんなときだからこそ、約10日間の間に、一つの評論・小説・経済新書・歴史新書などを手に入れてじっくり読む時間などが生み出せませんか。健康な体は、人との接触が極めて少ない環境下で、健康的に活動することも可能になるのではないですか。
何を「するべき」でなく「守るべき」なのかをしっかりと考えて、適切な行動をとって、規則正しく、いまできる「当たり前」生活を継続していきましょう。

42回生

3月13日連絡分

42回生

おはようございます。今日は、どの朝刊紙も兵庫県高等学校復数選抜入試の問題が掲載されていますね。昨日は、受験した2年前の気持ちを思い出してみようと投げ掛けました。今日は、2年前に立ち向かった高校入試の問題を、得意な科目、苦手になってしまった科目、興味を引いた科目など、選び方はいろいろありますが、思考力を試されているような問題を、1、2 題解いてみませんか。
意外と、今自分の学びを停滞させている部分を動かすヒントが隠れているかも。これも、初心を思い出す一つの機会になるかもしれません。
休校後、二度目の週末が近づいています。生活のリズムをやや失っている人は、そろそろ規則正しい生活を送るよう、やる気ねじを巻き直しましょう。
ただ、兵庫県でもコロナ熱病はなかなか収束しません。今後の情報、連絡にも敏感であって下さい。

3月14日連絡分

42回生

おはようございます。高校入試問題を解いてみた感想はどうですか？懐かしさ、新しさ、あるいは、あの頃の自分の夢……。詳細はそれぞれの教科で異なりますが、私たちが来年1月に臨む全国共通テストの走りであるようにも思います。読み進めていけば、つまりうまく流れに乗れば解けるけれども、時間にかかり追われる、すなわち、読解トレーニングが必要な問題であると思います。まだ、取り組んでいないという人。登校時の課題提出に追われず、少し時間を作って下さい。

3月16日連絡分

42回生

おはようございます。いよいよ、明日は久しぶりの登校です。コロナ熱病に対する不安、久しぶりに大人数の中での行動の不安、あるいは、「行かなあかんの？」という気持ちとの葛藤。
いろいろあると思いますが、残されたあと2回の登校で、今年のクラスメートとの時間を楽しみませんか？本来であれば、23日をもって、いわゆる2学年に別れを告げ、本格的な3年零学期に突入し、24、26、27日の春季休業中の補習に臨むのですが、現段階では確実に実施できるとは言い切れません。皆さんの出鼻を挫き、大変申し訳なく思います。
ただ、時は待ってくれません。

【ピンチをチャンスに】

心地よい3年生零学期のスタートを、自分の意思・行動で行うことができるよう、また、学校への想いを感じることができる顔に出会えることを、42回生教師団だけでなく、相生高校職員一同で待っています。

3月4日に発信を開始して以来、次の登校が認められた17日に向けての16日までのメッセージを掲げました。暫くは本校HP上に残っています。今後も、イレギュラーな生活の間は、可能な限りメッセージを発信し続けようと思えます。
新任の時以来、お世話になった数学の先輩教師の方から「言葉は文化」という教えを受けました。年を経るにつれ、その言葉の重みを感じます。
「無駄」と思うことを削り続けると、「遊び」も「余裕」も削り取られます。
「無駄」と思うことがあるからこそ、その反対に「大切」にしたいものが見えて、視野を広げていけるものです。
何気ないからこそ、大切にしたい言葉を発信し続けます。

私が高校三年生の時、「のじぎく兵庫国体」が赤穂市で開催されました。地元開催ということもあり、同年代の選手は皆、この大会に出場することを夢見て日々稽古に勤しんでいました。選手選考会には何度も行われ、とても勉強に専念するという状況ではありません。残念ながら、メンバーには選ばれず、国体への出場は果てませんでした。残念ながら、私の中に残っていたものがありました。同じく、ラスの者は早い段階(二年の三学期)から入試モードに切り替わり、勉強に励んでいました。私はその間、全くと言っていいほど勉強していませんでした。多くの借金が残っていました。慌てて勉強を始めたので、周りの遅れを常々感じ、結局その穴を最後まで埋めることができませんでした。受験で失敗しました。振り返ってみても、自分が過剰に高校生活に後悔はありません。しかし、何度か思うことはあります。もっと上手に時間を使っていれば、人生変わっていたかもしれません。時間は皆平等であり、どう使えば、その人次第。これからは時間を使いついては考えています。時間がなくて、自ら時間を操ってほしいと思います。時間

前田 嘉暢

私の高校三年零学期は、今の自分への道の始まりでした。当時、私が所属した陸上競技部には、指導して下さる顧問の先生は、いまでも先輩を頼り、春休みを利用して大学の練習に参加してもらいました。そこで、運命的な出会いがあり、その大学を目指し、教師になりました。担任には、何度も違う話をされ、その先輩と毎日の練習がしたい。正直、こんな進路の決め方ってあるのかな、とも思いました。
四月にある文化祭は、文化センターで行われる二日目は試合のため公欠で参加できないので、大道具の仕事を手伝いました。一年の冬から悪友五人で企んでいた、文化祭一日目のステージ発表のため、二日に一度は約二時間のスタジオ練習をしたこと。今となつては良い思い出です。
今なお、五年に一度の同窓会では、多くの同級生に声を掛けてもらえ、三年零学期も含めて、その都度、やり切ってきたことの証拠かと思えます。
部活動も、結局納得がいかず、六月末の選手権大会を目指して練習しましたが、その途中、気持ちよく軸足の左太腿を肉離れ。深く、切り替えて受験勉強モードに入りました。
やらぬ後悔をしなくて良かった。いま強く感じています。

荒内 秀明

四月の予定
変更の可能性が
あります
連絡の
確認を
お願いします

八日(水)	始業式
九日(木)	離任式・対面式・生徒総会・身体測定
十日(金)	実力考査 数学 実力考査 国語・英語 (理系) 化学・物理 or 生物 (文系) 日世 B
十三日(月)	実力考査 (理系) 地理 B 各種委員会 生徒会立会演説会・選挙 校外活動(予定)
十五日(水)	進路講演会
二十日(水)	挨拶運動
二十四日(金)	昭和の日
二十九日(水)	

一日でも早く、通常の生活に近づくことを祈りたい

無駄に思われるかもしれませんが、生徒・保護者とも手元に持つて頂きたい、各回二種類の発行をあと一年、ご容赦願います。大きい方を保護者用、小さい方を生徒用でお願いします。